

国際教育競争資金がもたらした 歴史的な意義と今後の課題

競争的資金に申請する・しない3大学調査

グローバル・エンゲージメントセンター
星野 晶成



国際教育交流に関する競争的補助金事業の採択大学①

(例：大学の世界展開力強化事業)

大学名	採択回数	採択プログラムの対象地域・年度
東京大学	12	アメリカ(2011)、キャンパスアジア(2011)、ASEAN(2012)、インド(2014)、ロシア(2014)、トルコ(2015)、中南米(2015)、キャンパスアジア②(2016)、インド(2017)、COIL(2018)、アジア高等教育共同体(2021)
名古屋大学	8	アメリカ(2011) キャンパスアジア②(2011)、ASEAN(2012)、キャンパスアジア②(2016)、アジア高等教育共同体②(2021)
九州大学	7	キャンパスアジア(2011)、ASEAN②(2012)、キャンパスアジア②(2016)、アジア高等教育共同体②(2021)
千葉大学	7	欧州(2011)、ASEAN(2012)、中南米(2015)、キャンパスアジア(2016)、ロシア(2017)、COIL(2018)、アジア高等教育共同体(2021)
早稲田大学	6	アメリカ(2011)、キャンパスアジア(2011)、ASEAN(2012)、AIMS(2013)、キャンパスアジア(2016)、アジア高等教育共同体(2021)
広島大学	6	欧州(2011)、AIMS(2013)、キャンパスアジア(2016)、インド(2017)、アフリカ(2020)、アジア高等教育共同体(2021)
北海道大学	6	ASEAN(2012)、AIMS(2013)、ロシア(2014)、ロシア(2017)、インド(2017)、アフリカ(2020)
東京工業大学	5	アメリカ(2011)、キャンパスアジア(2011)、キャンパスアジア(2016)、ロシア(2017)、アジア高等教育共同体(2021)
立命館大学	5	キャンパスアジア(2011)、AIMS(2013)、インド(2014)、キャンパスアジア(2016)、アジア高等教育共同体(2021)
京都大学	5	キャンパスアジア(2011)、ASEAN②(2012)、キャンパスアジア(2016)、アフリカ(2020)

国際教育交流に関する競争的補助金事業の採択大学② (例：大学の世界展開力強化事業)

大学名	採択回数	採択プログラムの対象地域・年度
東京藝術大学	5	トルコ(2015)、キャンパスアジア②(2016)、COIL(2018)、アジア高等教育共同体(2021)
長崎大学	5	キャンパスアジア(2016)、ロシア(2017)、アフリカ(2020)、アジア高等教育共同体②(2021)
筑波大学	5	欧州(2011)、AIMS(2013)、ロシア(2014)、中南米(2015)、アジア高等教育共同体(2021)
東京外国語大学	5	中南米(2015)、キャンパスアジア(2016)、ロシア(2017)、COIL(2018)、EU(2019)
慶應義塾大学	5	欧州(2011)、アメリカ(2011)、ASEAN(2012)、キャンパスアジア(2016)、EU(2019)
神戸大学	4	キャンパスアジア(2011)、ASEAN(2012)、キャンパスアジア(2016)、アジア高等教育共同体(2021)
大阪大学	3	キャンパスアジア(2011)、キャンパスアジア(2016)、アジア高等教育共同体(2021)
上智大学	3	AIMS(2013)、中南米(2015)、COIL(2018)
新潟大学	3	ロシア(2014)、トルコ(2015)、キャンパスアジア(2016)
一橋大学	2	キャンパスアジア(2011)、キャンパスアジア(2016)

国際教育交流に関する競争的補助金事業の採択大学③

(例：大学の世界展開力強化事業)

大学名	採択回数	採択プログラムの対象地域・年度
岡山大学	2	キャンパスアジア(2011)、キャンパスアジア(2016)
東京海洋大学	2	キャンパスアジア(2016)、アジア高等教育共同体(2021)
東北大学	2	ロシア(2014)、アジア高等教育共同体(2021)
東京農業大学	2	中南米(2015)、アフリカ(2020)
明治大学	2	ASEAN(2012)、キャンパスアジア(2016)
長岡技術科学大学	2	インド(2014)、中南米(2015)
山梨大学	1	アジア高等教育共同体(2021)
立教大学	1	アジア高等教育共同体(2021)
宇都宮大学	1	アフリカ(2020)
山口大学	1	アフリカ(2020)

大学名	採択回数	プログラム
秋田大学	1	アフリカ(2020)
豊橋技術科学大学	1	EU(2019)
鹿児島大学	1	COIL(2018)
琉球大学	1	COIL(2018)
大阪市立大学	1	COIL(2018)
南山大学	1	COIL(2018)
関西大学	1	COIL(2018)
金沢大学	1	ロシア(2017)
東海大学	1	ロシア(2017)
近畿大学	1	ロシア(2017)

大学名	採択回数	プログラム
東京学芸大学	1	キャンパスアジア(2016)
山形大学	1	中南米(2015)
北陸先端科学技術大学院大学	1	インド(2014)
東京農工大学	1	AIMS(2013)
東京医科歯科大学	1	ASEAN(2012)
愛媛大学	1	ASEAN(2012)
政策研究大学院大学	1	キャンパスアジア(2011)
国際教養大学	1	アメリカ(2011)
立命館アジア太平洋大学	1	アメリカ(2011)
関西学院大学	1	カナダ(2011)

-大学の世界展開力強化事業の採択実績を見ると-

1. 特定大学のみが申請し、採択されているのではないかな？
2. 申請する・しない大学の理由や背景はどのようなものなのかな？
3. 申請する・しない共通要因、および独自のストーリーがあるのではないかな？

補助金申請をする・しない大学への調査

- 大学の選定理由：国際活動に強みを持つ大学(交流人数実績、補助金採択実績有無、大学方針)がある私立大学
- Zoomインタビュー（60分程度）

大学	所在地・種類	インタビュー対象者	国際系の競争的補助金事業のこれまでの経験
A大学	関東圏私立	元国際担当副学長 (国際系センター長)	2010年代に1回採択、その後、別の補助金事業に申請するが、2回連続で不採択
B大学	関西圏私立	国際交流部部長・課長補佐	2000年代の国際系GP事業に1回採択、その後、2010年代前半に2件程度申請するも不採択
C大学	関西圏私立	国際交流部部長・課長	数年前から国際教育交流を大学の戦略として力を入れ始めた。大型の補助金申請は未経験だが、小規模のものはある→不採択

インタビュー質問

-これまでの国際系の競争的補助金事業の経験-

- (経験があれば) 過去の文部科学省の国際系の競争的補助金事業の申請・採択の経験や教訓
- 競争的補助金事業への申請・採択・実施に対する印象や経験を短く表現するならば?
- 申請・採択される利点・不利点について
- 現在の学内の国際系の競争的補助金事業申請に対する方針、また、その理由と背景

-今後の国際系の競争的補助金事業について-

- 競争的補助金(例：大学の世界展開力)の採択が一部の大学に偏っていると受け取れる。これについてどう思うか?
- 今後、競争的補助金事業として扱うテーマやあり方とは?

申請・採択・実施への印象・経験を表すと？

疑心暗鬼

出来レース？

目標の形骸化
(数値報告)

資金の
使いにくさ

理不尽

ナショナルリスティック

面倒臭い

毒まんじゅう

誰にやらせようか

グローバルなのに
国内的

教育の質向上・
拡大の有効手段

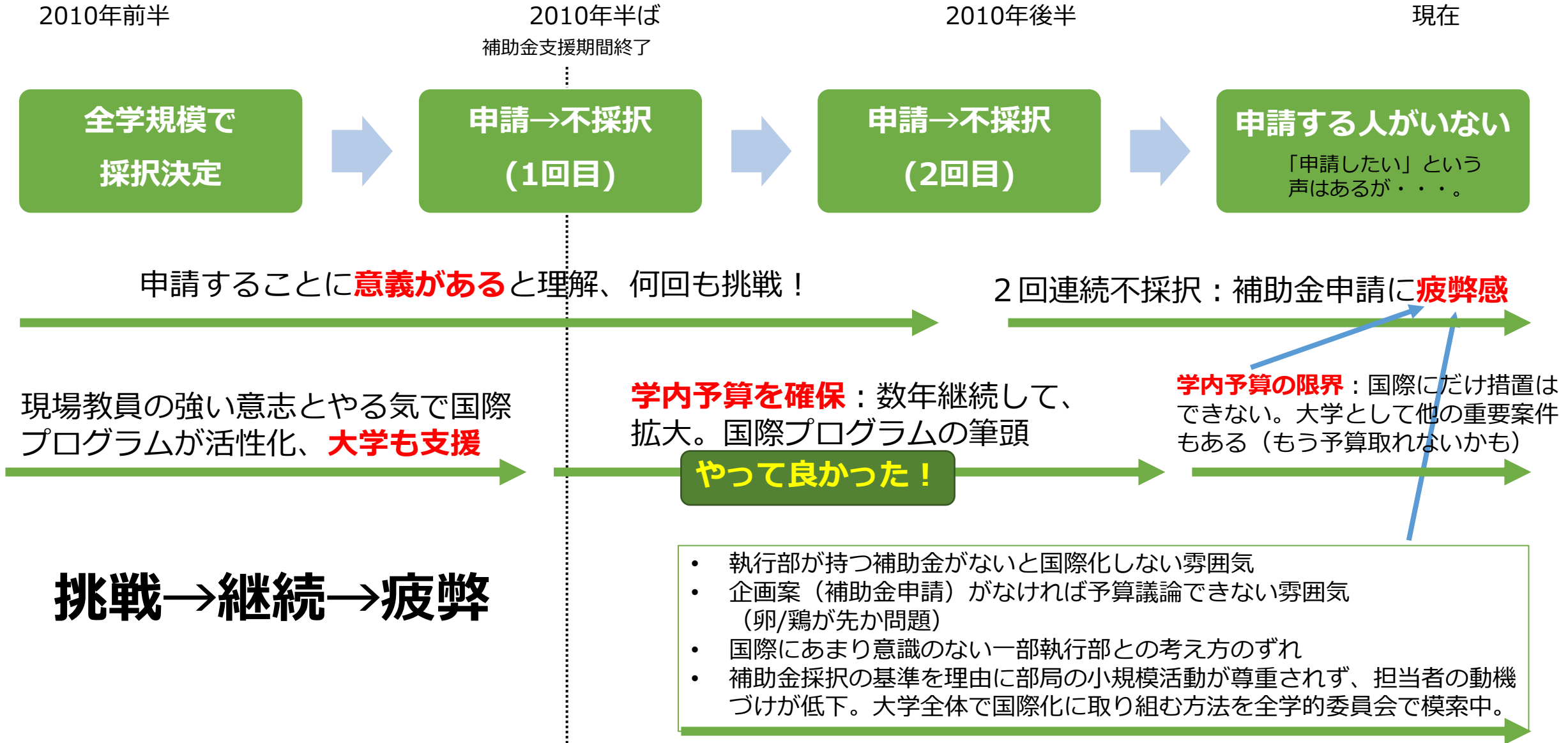
外部資金は
欲しい

何を書けば
採択するの？

中途半端なコミッ
トメントはだめ！

自前予算で
やる方が気楽

A大学の申請する・しないストーリー



B大学の申請する・しないストーリー

2000年代中頃

教育GP
採択決定

2010年半ば

2回申請→不採択

2010年後半

大学の需要と
合致すれば積極的に申請

現在

教育の充実と拡大を目的として大学方針に合致する時に申請

学内で優先順位がより高い取り組みが発生していたため、近年は申請せず

学内では内的資金よりは補助金をまず獲得し、有効活用すべきという認識はある

補助金のデメリット（用途制限・使い切り・年度制限）
→軌道に乗っている事業には制限がかかる可能性を体験
→支給額が年々減少していく怖さと事業後の自走の心配

大学の国際事業へのコミットメントの重要性

挑戦→継続

C大学の申請する・しないストーリー

2010年代中頃まで

2010年代後半

現在

国際事業への
優先順位は低い

大学方針の一つを国際へ転換
(正規外国人留学生の受入)

積極的に申請を検討するが、
労力と申請内容と方法が。

国際事業に対する**組織的な体力・ノウハウ**
がなく、大型補助金には申請していない

補助金事業の種類・テーマが限定的
現在、本学の方針と**合致する補助金事業**がない

理事会が国際活動にかなりの**学内予算措置を実現**
(特に正規外国人留学生のリクルーティング)

エージェントを活用した入試・広報活動展開
補助金採択主幹校のプログラムと連携
(海外事務所主体の入試・広報活動)

新規挑戦→模索

「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に申請→不採択
理由：リクルーティング・エージェントを活用することを指摘された
→どういった活動で、何を申請すれば良いのかわからない=**情報・経験不足**

- 国際に強い大学ネットワークに入っていないともう通らないという風潮
- 国際という軸を持ち、その人的資源がしっかり確保できていない大学は申請できない（新規参入・挑戦が難しい）
- 国際に強い人的資源は国立・有名私立大学に集中しすぎている
- 文科省も審査員も採択させたい大学があるのではないか？競争的ではなくて、出来レースになっている噂を聞く
- すでに経験と実績豊富な大学が有利、新規で国際交流やろうという大学には、何をどう書くべきかわからない。
- 申請枠組みの問題もある（入学定員や支援規模・期間）

- 実際にグローバルを体験できる機会（英語力じゃなくて、グローバルな価値観を吸収できるもの）
- Inbound & outbound共に、体験学習(インターンシップ)に関連する補助金
→文科省の方針と現場とのギャップがかなりある。新しくやろうとする大学はノウハウやプラットフォームがそもそもない。
- 世界から工学系の学位取得留学生を集めるリクルート事業
- もう一度、日本の高等教育の強みとユニークさを再議論・定義した上で、どのように世界と差別化するかを考えて、政府・文科省が補助金事業を策定した方が良い。

1. 「補助金採択校が一部に偏っているのでは？」という認識が存在する。なぜ偏ってしまうのか？
2. 今後、競争資金はどうあるべきか、また対象とすべきテーマは？
3. 発表者が考える競争的資金の歴史的な意義とは？

Q & A